

科 目 名
日本の文学Ⅰ Japanese LiteratureⅠ

1年 前期 2単位 選択
坂 口 頼 孝

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(2), 2-(1)(4)(5), 3-(1)(5)
建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準1の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
A	—	建築総合コース	選択	22.5時間
	A1	建築計画コース		
	g	建築構造コース		

【概 要】

歌人として、また多くの古典を書きし今日に伝えた功績で知られる藤原定家。その定家の書いた短い歌論書（短歌の作り方を述べたもの）がある。そこにお手本として103首（使用教科書では102首）の短歌が載っている。その中から春・夏・秋・冬を歌い、内容的に魅力があり、語法的にも重要と思われるものを順次取り上げる。

テキストは影印本（筆書き）で変体仮名（現在のかたと違ったもの）も混じっている。その変体仮名が読めるようになることが大きな目標である。必要に応じ仮名遣い・発音の移り変わり・文法を講義する。生の古典に触れ、それを読み解く喜びを感じてもらいたい。

本授業は学士課程共通の学習効果の「1. 知識・理解」の「(2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を主として、「2. 汎用的技能」の「(1) コミュニケーション・スキル」「(4) 論理的思考力」「(5) 問題解決力」と「3. 態度・志向性」の「(1) 自己管理力」「(5) 生涯学習力」にも対応する。

本授業は建築学科教育カリキュラムの「A1.人文及び社会科学の教養」に対応し、「(g) 自主的、継続的に学習できる能力」を養うものともなる。

【到達度目標】

学習効果の1-(2)に関しては、変体仮名が読めるようになること、併せて日本語の音の変遷と仮名遣いの問題・和歌の表現技巧を理解し、品詞分解や口語訳の基礎を身に付けること。学習効果の他に関しては、和歌を辞書などを使って努めて自分で読み解くことにより、やっただけのものが自ずから身に付いて来る。

建築学科教育カリキュラムのA1に関しては人文科学である和歌を原典で読み解き鑑賞する基本的な力を付けること。同gに関しては、和歌を辞書などを使って努めて自分で読み解くことにより、やっただけのものが自ずから身に付いて来る。

【授業計画】

テ ー マ	内 容
① 導入	授業の目的・やり方を確認した後、漢字・万葉仮名・片仮名・平仮名について説明する。
② 1 首目 (1)	1 首目 (教科書 1 の 7 ページ) の初めの部分を字源 (漢字) に直させる (教科書 2 も使わせる)。そこを読ませ、ハ行転呼音およびハ行子音の変遷について説明する。※残りの部分の字源を宿題として課す。
③ 1 首目 (2)	1 首目の歌の字源を学生を指名して板書させ確認する。続けてかな表記・漢字かな混じり表記を学生を指名して板書させる。品詞・品詞分解・活用・動詞の活用・形容詞の活用・形容動詞の活用・助動詞の活用について一般的に説明する。※プリント (用言の活用表・一般的・空欄あり) を宿題として課す。
④ 1 首目 (3)	1 首目の歌の品詞分解・語意・修辭を説明した後口語訳を完成させる。※プリント (用言の活用表・個別的・空欄あり) を宿題として課す。
⑤ 2 首目	2 首目 (7 ページ) の字源を確認し、かな表記・漢字かな混じり表記をさせ、品詞分解・語意・修辭を確認した後口語訳を完成させる。※プリント (助動詞の活用表・空欄あり) を宿題として課す。
⑥ 3 首目	3 首目 (8 ページ) の作業 (同前)。※プリント (助詞の接続表・空欄あり) を宿題として課す。
⑦ 4 首目	4 首目 (8 ページ) の作業 (同前)。※プリント (教科書 1 の 7 ページ・空欄あり) を宿題として課す。
⑧ 練習 (1)	プリント (過去問) を本番と同じ形式でやらせる。机間巡視し、出来の良くない学生をリストアップし、補習授業 (学生支援センター) に出よう促す。最後に過去問の解説をする。※プリント (教科書 1 の 8 ページ・空欄あり) を宿題として課す。
⑨ 5 首目	5 首目 (11 ページ) の作業 (同前)。※プリント (教科書 1 の 9 ページ・空欄あり) を宿題として課す。
⑩ 6 首目	6 首目 (13 ページ) の作業 (同前)。※プリント (教科書 1 の 10 ページ・空欄あり) を宿題として課す。
⑪ 7 首目	7 首目 (17 ページ) の作業 (同前)。※プリント (教科書 1 の 11 ページ・空欄あり) を宿題として課す。
⑫ 8 首目	8 首目 (19 ページ) の作業 (同前)。※プリント (教科書 1 の 12 ページ・空欄あり) を宿題として課す。
⑬ 9 首目	9 首目 (21 ページ) の作業 (同前)。※プリント (教科書 1 の 13 ページ・空欄あり) を宿題として課す。
⑭ 練習 (2)	プリント (過去問) を本番と同じ形式でやらせる。机間巡視し、出来の良くない学生をリストアップし、補習授業 (学生支援センター) に出よう促す。最後に過去問の解説をする。※プリント (教科書 1 の 14 ページ・空欄あり) を宿題として課す。
⑮ 練習 (3)	プリント (過去問) を本番と同じ形式でやらせる。机間巡視し、出来の良くない学生をリストアップし、補習授業 (学生支援センター) に出よう促す。最後に過去問の解説をする。

【授業方法】

※前回宿題を出していた場合はまず提出させ、提出の有無を記録する。その後授業中に交代で答え合わせをさせ、再提出させる。

1. その日取り上げる一首を指示し、変体仮名を板書する。字の切れ目がどこかを黄色のチョークで示す。
2. 教科書 2 を使い、変体仮名の字源を書かせる。難しいものは読みを教える (既出であれば、その箇所を教える)。
3. すべて出来た者には一首を全部平仮名で書かせ、歴史的仮名遣いの誤りの有無を古語辞典で調べさせる。
4. 古語辞典を参考に一首を漢字かな交じりで書くよう指示する。
5. 古語辞典を参考に品詞分解をするよう指示する。難しい所は説明する。

6. 歌の修辞について説明する。
7. 古語辞典を参考に口語訳をするよう指示する。

【学習到達度の評価】

- 1) 各人の宿題の提出状況・出来具合をチェックする。
- 2) 中間と最後に過去問をやらせ、その段階での合格可能性を自覚させ、教師側もそれを個別指導に生かす。
- 3) 筆記試験の答案の出来を見に来た学生に対し、個別に講評を行う。

【評価方法】

- 1) プリント宿題20点満点（③～⑥各1点。⑦～⑭各2点）、定期試験80点満点（筆記）。辞書忘れや遅刻は総点から1点ずつ減点。60点に満たなければ再試験（1回のみ・60点以上の場合に60点として合格）を実施する。定期試験・再試験は古語辞典（電子辞書）と文法書のみ持込可。時間は60分。
- 2) 最終授業の終わり頃に学生自身による自己評価を実施する。また授業（教師）に対する評価もしてもらう。

【関連科目】

1 年後期：日本の文学Ⅱ

【教科書・教材】

1. 百人一首（堯孝筆）笠間書院（1,000円）……必要
2. 字典かな 笠間書院（390円）……必要

【履修上の注意】

古語辞典（電子辞書の場合、活用表が付いていないものは別に文法書が必要）とノートと筆記用具（赤ペンを含む）を必ず持って来ること。ノートは過去の分も持って来ること。

【オフィスアワー】

金曜 4 限。その他空き時間であればいつでも受け付ける。なお木曜 5 限は学生支援センターで対応。